

【電子版】

2024年 第2号 2024年2月13日



発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071

fax. 03-3874-4997

メール info@jikosoren.jp

ホームページ→



現在も将来もライドシェアは必要ない

1・30 RS解禁阻止1日行動

安心・安全な地域公共交通を守る

自交総連は1月30日、「1・30ライドシェア解禁阻止1日行動」を実施しました。午前からの池袋駅前での宣伝行動を皮切りに、午後は衆議院第2議員会館・多目的会議室で国会内決起集会を開催し、最後に衆参の国土交通委員、タク議連、各政党議員へ要請行動を行いました。

- 池袋駅前宣伝行動（1ページ）
- 国会内決起集会（2～7ページ）
- 議員要請行動（8ページ）

池袋駅前宣伝行動

ライドシェアの危険性を歩行者に訴える

朝10時、池袋駅東口前（西武百貨店側）に集結すると、自交総連の約40人の仲間は、街頭演説、ティッシュ配布、「安心・安全な地域公共交通を守る請願書」の署名集めなどの宣伝行動を開始しました。

マイクを握った庭和田裕之中央執行委員長はまず、「池袋駅前をご通行の皆さま。朝からお騒がせしていますが、ライドシェアという白タク



人々の注目を集めた

行為が合法化されようとしている現状をお伝えたく我々は声をあげています」と歩行者に語りかけました。そして、ライドシェアは安心・安全な地域公共交通を破壊するとんでもないものだとし、解禁を阻止するために協力をお願いしたいと続けると、その場で足を止めて聞き入る人や動画を撮影する人もいました。

続いて、北海道や東北、東京、静岡、福岡の代表者が各地の状況を訴える中、待機しているタクシー乗務員へ積極的に声がけを行ったり、ビラや署名に興味を示す通行人にライドシェアの危険性について説明しました。

国会内決起集会**タクシーを守らなければならない**

13時30分から、衆議院第2議員会館・多目的会議室で国会内決起集会を開催しました。

冒頭、庭和田裕之中央執行委員長の主催者あいさつで会場の士気があがり、続けて4氏が来賓あいさつを行ってライドシェア阻止への共闘を誓いました。

さらに決意表明では、自交総連の各地の代表者がタクシー労働者の現状と業界の状況、地元の規制緩和に関する動きについて語り、「ライドシェアなんて現在も将来も必要ない！」という激には大きな拍手があがりました。

最後は徳永昌司副中央執行委員長のシュプレヒコールで、自交総連・友誼団体・国会議員・マスコミ関係者で埋めつくされた会場がひとつになって、安心・安全なタクシーを守るという団結を確認しました。

庭和田裕之中央執行委員長 主催者あいさつ

私は、自交総連の役員をしてきた中で、これほどまでに強い怒りを覚えたことが二度ありました。ひとつめは、小泉純一郎元総理によって行われた2002年のタクシー規制緩和ですが、ふたつめはその息子の小泉進次郎衆議院議員がタクシーの本業を壊してしまうような仕組みを導入しようとしていることです。私たち自交労働者が大きく苦しむことになるこんな政策をまたぞろ繰り返そうとしている問題に、本当に腹の底から頭にきています。

本日、私たちは「ライドシェアを許してたまるか！」と決起集会を開催することにいたしました。この拙速な期間に、道路運送法78条2号・3号をどんどん規制緩和し、その次のライドシェア新法に進んだ場合、タクシーは取り返しのつかないことになります。北は北海道から南は沖縄、24時間365日どこであっても安心して乗れる、夜中でも子供1人、女性1人でも安心して乗れるタクシーが潰されようとしています。「タクシーが足りないからライドシェアをやる」だなんて、そんなことをしたらどうなるかは世界中の実例をみれば一目瞭然です。交通弱者といわれる方がひどい目に遭わされるだけで、特に女性は性暴力などの被害を受けたなんて話は山ほどあります。ライドシェア推進派は、「日本は外国と比べて犯罪率が低いから大丈夫」などといっています。そうした無責任な発言への怒りもありますが、私が一番頭にきていることは、本当の意味で腹から怒りながら、こんなものは駄目だという声をあげている組織がこの業界でどれほどあるのかということです。自分だけ声をあげても意味がないと思う人もいるかもしれませんが、駄目なものを駄目だと言い続けてこなかったことが、今



庭和田委員長

の日本の体たらくに繋がっています。

だからライドシェアの問題は、私たちタクシー労働者だけではなく、労働者性の問題であるということも、しっかり真ん中に見据えて物事を考えていかなければなりません。今日お集まりいただいた組合員の方、また友誼団体の方も含めた私たちが、駄目なものは駄目、おかしいことはおかしいということ、本当に腹の底から伝えられるかが勝負だと思っています。

絶対にライドシェアを入れさせないということで一丸となって、全国各地でその声を拡げに拡げて闘っていきましょう。

4 氏から来賓あいさつ

◎ 日本共産党・伊藤岳参議院議員

地域公共交通の崩壊は本当に深刻だと思います。なぜこの地域公共交通の崩壊が起きてるのか、なぜ運転者不足が起きているのか。タクシーの運転者の不足の根本的な問題は低賃金にあります。

しかし、政府が言い出してるのは、ライドシェアです。河野太郎大臣は「移動の自由」と言いましたが、ライドシェア解禁で起きるのは安価な価格競争です。新たな価格競争に勝ち抜こうとタクシー会社で首切りが始まり、小さな会社から淘汰されるかもしれない。結局、ライドシェアの解禁では、移動の自由がますます保障できないという大変深刻な事態を招くことになります。

日本国憲法の精神として、全ての国民が移動交通の権利を有しています。つまり、その権利を保障する責任が国にはあります。地域公共交通の補助金の増額や、運転者の低賃金改善に繋がるような補助の仕組みを充実するといった、財政的な面も含めて責任を果たすことが政治の力として求められていると思います。

このライドシェアの問題は、間違いなくこの国会の重要課題の一つになっていくと思っております。日本共産党の国会議員団を挙げて、ライドシェア解禁を阻止するために全力を挙げてたたかう決意を表明します。



伊藤参議院議員

◎ 全労連・小畑雅子議長



小畑議長

ライドシェアの問題は、タクシー労働者の皆さんの問題にとどまることなく、私たち国民労働者、国民の安心・安全な交通手段の確保そのものの問題に繋がります。とりわけ、交通弱者と言われる障がい者や高齢者、そして公共交通機関が不十分な地方での足を守るために欠かせない課題になってくると思います。

3年以上にわたってコロナが続き、そして今年の1月には、能登半島で大きな地震が起きました。その中で改めてこの国民の安心・安全を守るための公共の大切さが浮き彫りになりました。今求められているのは、

壊されてしまった公共そのものを取り戻すことです。そうしたときに、この安心・安全な公共交通の要とも言うべきタクシー産業、そしてタクシー労働者を脅かすライドシェアの解禁など許されるものではないと思っております。安心・安全な地域公共交通としてのタクシーを守り、発展させていくために、地域公共交通を維持する補助金を増額するなど、国が責任を果たすべきです。

全労連は、ライドシェアの導入ではなく、タクシー労働者の大幅賃上げ、処遇改善で地域交通を守れ、このことを24春闘にて大きく掲げて皆さんとご一緒にたたかってまいりたいと思います。

◎ 交運共闘・石橋覚副議長

ライドシェアの問題点は、利用者の安全確保ができないことです。二種免許を保持し、研修を受けたプロのドライバーが運転するタクシーに対して、ライドシェアは全くの素人が対応し、知らない人との同乗になります。その際、車両の整備、運転者の健康状態、もしも事故が発生した場合の対応や賠償など、様々な問題が思い浮かびます。

この観点からも、個人のモラルが問題となり、事件に移転していくケースが日本でも大いに考えられるところです。ライドシェアを導入した諸外国では、暴行・性犯罪などが起こっていますし、航空、空港、駅、繁華街等では、渋滞を引き起こしている実態があります。日本でライドシェアを解禁すれば、近い将来、バス、タクシーなど、地域公共交通機関が衰退します。また、高齢者や体の不自由な方々が安心して利用できるとは到底思えません。

交運共闘では、タクシー業界と労働者の雇用と生活の安定、そして何よりも安心・安全な公共交通機関を守っていくことが、利用者の利便性の向上に繋がることを確信しています。国は公共交通を維持し活性化させていくために、タクシー業界への補助金を大幅に増額し、利用者が安心して利用できる地域公共交通機関を守ることが重要と思っています。ライドシェア導入に断固反対の声を上げ、皆さんとたたかう決意を申し上げ、交運共闘からのあいさつとさせていただきます。



石橋副議長

◎ 全日本視覚障害者協議会（全視協）・藤野宣子総務局長



藤野総務局長

私たち視覚障がい者はタクシーをとても利用します。私は5年ほど前までは神奈川茅ヶ崎というところにおり、駅を降りて、夜遅ければ必ずタクシーで家まで帰っていましたが、ひどい目に遭ったことは一度もありませんでした。プロってということで信じきっています。手を引いてもらったり、何かお願いするときも、やはり相手を信じて頼む以外にないと思っていまして、そういうことを考えたときに、ライドシェアって本当に恐ろしいなと思います。

それは私たちの会の多くの仲間もそう思っています。ライドシェアって白タクですね。昔は白タクってすごいうるさく禁止されて、厳しく取り締まられていましたよね。それをこれからや

ろうっていうんですから、本当に私たち視覚障がい者にとってはすごい世の中になるんだなって思っています。無人駅がどんどん増えて、私たちはとても困っています。今バスも減便されて、地域では本当に大変ですし、タクシーもこれからライドシェアになって、どうしようかなっていうところです。

私たちはタクシー協会や営業所などと交渉はしてきましたけれども、労働組合の皆さんと一緒にいいものいいタクシーを作っていく、安心・安全なタクシーを作っていくところがまだちょっと足りなかったと反省しています。

ですから、これからは労働組合の皆さんと一緒に、視覚障がい者の女性が1人でも乗れる、安心して乗れるタクシーを守っていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお祈りします。一緒に頑張っていきたいと思います。

北海道・東北・神奈川・山口・福岡の代表が決意表明



決起集会の会場は人であふれかえった

◎ 北海道・吉根清三地連書記長

北海道のタクシーの労働条件は年収が200万円ギリギリです。最低賃金ですね。本当に苦しい、そういった中でも、利用客の安全を守るために、タクシードライバーの誇りで安全輸送の確保にプライドを持ってがんばってるんです。本当に公正な働き方を私たちが求めても、労働条件悪化をさせるために、白タクのギグワーカーつまり非正規労働者をまた増やしてくる。過当競争でどんどん今のタクシーの運転者の賃金が下げられていきます。今回のライドシェアも、2002年のタクシー規制緩和のようにまた非正規労働者が増えていく。雇用による働き方をしっかりと守っていくことで、私たちの労働条件を守るっていうことでは、タクシー労働者だけじゃなくて、全ての労働者の闘いなんです。

もう一度タクシーの第二種免許を持ってるプロとしての誇りを持って、しっかりとモラルの向上もしていくことで、北海道も全力を挙げて、このライドシェアとたたかっていきます。

私たちは、利用者の皆さんや、仲間の皆さん、北海道交運共闘と手を携えて、ラ



吉根書記長

イドシェアの中身をよく知ってもらって、やはり絶対にこれ許さない。そして、世界に誇れる日本の安全・安心に自信を持つ。そのことに全力を挙げる決意です。ともにがんばりましょう。

◎ 東北・池田智行地連副委員長



池田副委員長

私たち自交総連の組合員は一貫してライドシェア導入案に反対してきました。私も微力ながら、地元山形県、秋田県を中心に活動させていただいております。

私が住んでいる東北地方では、需要と供給のバランスがほぼ保たれています。ライドシェアの導入は絶対に反対であるとともに、東北地方では現在も、また将来においても必要はありません。

コロナ禍以降、タクシーを始め営業所の乗務員が不足しており、人口が多い都会で、都会や観光地では深刻な問題になっていますが、東京都内でも法人、あるいは先輩ドライバーの努力で、20代から30代の若いド

ライバーや女性ドライバーが増加、活躍していると聞きます。東北地方でも一部仙台市の近郊では、若いドライバーや女性のドライバーが増加しています。国、政府のその場しのぎのライドシェア解禁の政策は、この先、私たちタクシードライバーだけではなく、業界外の多くの国民を混乱に陥れるような、いわば見えない悪魔です。

私はいちタクシードライバーとして、自交総連のいち組合員として、この度のライドシェア導入には断固として反対します。この見えない悪魔を追放していき、タクシードライバーの安定した収入と生活を守るべく、これからも奮闘して参ります。

◎ 神奈川・富松達也地本委員長

今現在、神奈川でタクシーが足りないと言われているのが、三浦市の夜中です。タクシー会社の社長曰く、「本当に需要がないから車動かせないんだよ。全部会社の持ち出しで営業することは不可能」だと。それなら、三浦市なり、神奈川県なりが補助金を入れてタクシーを動かす政策を取ればいいわけで、ライドシェアを持ってくる必要はまったくないと私は考えます。また、やや離れた松田町では、タクシー車両が少ないのでオンデマンドバスを運転しますということで、タクシーがその営業所から3台やっていたのが撤退しました。仕事がなくなったので箱根の方で仕事をしなさいというふうに言われたと。安易に自家用有償旅客運送を入れていくと、我々の仕事はどんどん取られていってしまいます。



富松委員長

観光地の箱根では、土日には人は来ているが、1月になってからはお客さまをお待たせするような状況はほぼないそうです。しかしライドシェアが入ってしまったら道路が渋滞しっぱなしになるので、駅へ戻ってくるのに時間がかかり、仕事ができなくなる、と組合員は言っています。

ライドシェアは絶対反対していかなきゃいけないことです。これからもタクシー

乗務員が安心して働ける、お客さまが安心して乗れるタクシーをめざして、がんばっていきたいと思います。

◎ 山口・川端輝彦地連書記長



川端書記長

私が住んでる山口県でも、コロナ禍や規制緩和のせいで、乗務員さんが減っています。ただ、タクシーの台数がそんなに足りなかって言われると、ちょうどいいか、逆に少し多いかっていうぐらいの感覚です。

先般お客さまとの会話で、ライドシェアの話をしたら、そのお客さんの答えが、「そんな誰のことも知らないような人の車に乗りたくない」でした。そりゃそうですよ。

普通に考えて、事故を起こしたときに補償も何もないかもしれない人の車に乗りたかって話になるんです。

さらに言えば、24日に久しぶりに積雪しまして、僕らも4輪スタッドレスでどうにか出勤したんですけど、乗務員もなかなか来れる人が少なくて対応できませんでした。こういう天候の日ってライドシェアをする人間は、車を稼働させるのかと。自動車運転をなりわいとしている私たちでさえも雪の日は嫌なのに、いわば素人みたいなライドシェアをやる人が安心・安全に運べるのかということなんですよ。

ライドシェアの危機はもうそこまで迫っています。白タク・ライドシェアの解禁だけは絶対に阻止せねばなりません。利用者の方々の安心と安全を守るために皆さん共にごがんばっていきましょう。

◎ 福岡・内田大亮地連書記長

福岡地連は宣伝カーで1日3回はみんなで福岡市庁舎の周りを回ってもらっています。規制改革会議の中で、福岡の高島市長がですね、嫌がりながらそのことを発言してたのをYouTubeで見ました。大体週に4、5日は博多の街中と博多駅の周りを走らせています。市長が勘弁してくれというまで宣伝カーを回し続けようと思っています。

本日、来賓の方からいろいろ良いお話聞けて本当によかったなと思っています。特に全視協の藤野さんから、「プロだから安心している」って言われて、タクシードライバーやっいて本当よかったなって改めて思いました。皆さんもね、やっぱりこういう声を聞いて、体にハンデがある人



内田書記長

たちを、私たちが安心・安全で、ドアツードアでうちまで送り届ける、このタクシーを守っていかなきゃいけないということを改めて思ったんじゃないでしょうか？

九州では、豪雨災害で鉄道がなくなってる地域や、バスをこれ以上走らせることができない地域が多々あります。今現在、そういったところの地域交通を守ってるのは、私たちタクシー以外いないんです。これから先も守っていかなきゃいけない。

そして、お年寄りや、体の不自由な方、いろんな方の人たちの足となって、これからはがんばっていきます。そのためにこのライドシェア、絶対に阻止するということを決意しまして、福岡の決意表明としたいと思います。共にごがんばりましょう。

議員要請行動

ライドシェア反対で協力を

| | |
|-----|---|
| 出席者 | 44人(北海道1、東北3、東京29、神奈川6、静岡1、大阪1、山口1、福岡1、本部1) |
| 要請先 | 71人 衆参国土交通委員、各タクシー議連議員、各政党議員 衆議院議員40人(自議連9、公明議連1、野議連8、自民3、立憲7、共産10、れ新1、無1) 参議院議員31人(自議連5、野議連8、自民2、立憲3、共産11、国民1、れ新1) |



要請書を受けとる高橋千鶴子衆議院議員（写真一番左）

決起集会終了後は、国会議員要請を行いました。2～3人で1班、全18班をつくり、衆参71人の議員に陳情しました。要請の主旨は、①ライドシェアの解禁への反対、②「安心・安全な地域公共交通を守る請願書」への賛同、③請願書を議院に提出する際の紹介議員になることへの承諾などです。

- ▽ 日本共産党・志位和夫衆議院議員（秘書） 丁寧に話を聞いてくれた。ライドシェアの危機感を共有し、署名の紹介議員の件も快諾。「国会質問も衆参国土交通委員会やデジタル委員会でやりたい。自交総連の皆さんに協力してもらいたい」との話だった。帰り際に、志位議員と廊下でバッタリ会い、本人にも要請内容と紹介議員の話をする、「しっかりと重く受け止めます」と頷いてくれた。
- ▽ 自由民主党・盛山正仁衆議院議員（秘書） 盛山議員はライドシェアに反対だが、党の方針には従わなければならないとの話だった。自交総連の意見を議員に伝えると言ってくれた。
- ▽ 立憲民主党・大河原まさこ衆議院議員 「野党議連としても廃案を求めていきたい。ライドシェア反対の考えを同じくする団体の後押しに感謝している」とし、署名の紹介議員の了解を得た。
- ▽ 日本共産党・高橋千鶴子衆議院議員 議員本人が話を聞き、要請内容に賛同してくれた。署名の紹介議員になると快諾した。
- ▽ 立憲民主党・森屋隆参議院議員（秘書） 「先生はライドシェアには反対の立場だ」との伝言があった。
- ▽ 日本共産党・吉良よし子参議院議員（秘書） 積極的に話を聞いてくれた。ライドシェアの危険性や労働者性の問題点を説明すると要請内容に賛同してくれた。